

4 Month
Progress
Report



東日本大震災支援活動報告

2011. 3. 14 - 6. 30

認定NPO法人 国際ボランティアセンター山形
東北広域震災NGOセンター



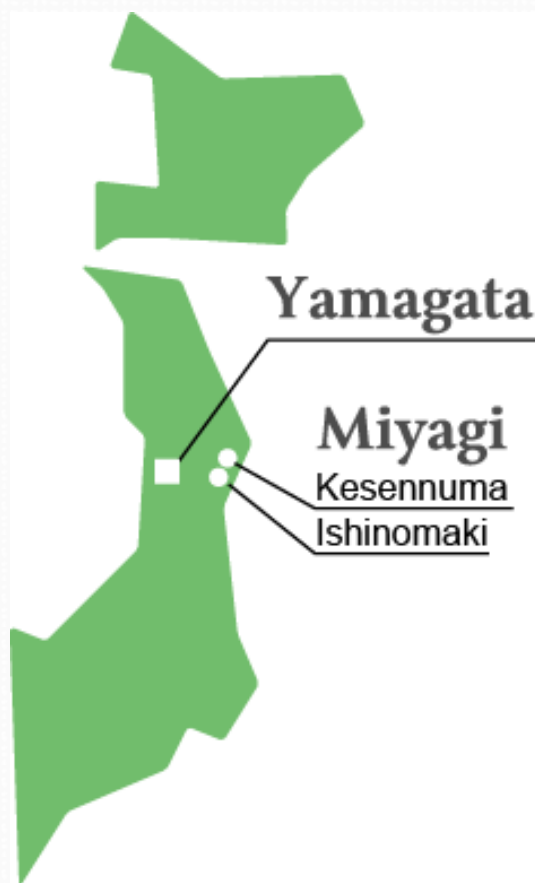


Contents

•東北広域震災NGOセンターとは？	P2
•活動概要	P3
•物資支援	P4
•キャッシュ・フォー・ワーク	P11
•わたのはプロジェクト	P16
•ネットワーク団体の支援活動	P17
•収支報告	P18
•寄付内訳	P19
•協力企業・団体一覧	P20

(写真左から) 支援物資の仕分けをする学生ボランティア、おにぎりの炊き出し、側溝を清掃するキャッシュ・フォー・ワーク雇用者

東北広域震災NGOセンターとは？



東北広域震災NGOセンターは、東日本大震災発生を受け、3月14日にIVYを事務局として設立されたネットワーク団体です。IVYが事務局を構える山形市は、約16,000人が死亡・行方不明、40,000もの人が避難所暮らしをすると報告される(*4月現在)宮城県の西に位置し、センターでは震災直後から自治体や県内企業の協力を得て、140以上の避難所と病院へ物資配達・ボランティアの派遣を行ってきました。

4月からは、被災地に雇用を生み出そうと「キャッシュ・フォー・ワーク」プロジェクトを開始。このプロジェクトは、被災者自身がガレキ撤去やヘドロ除去等、被災地で需要のある様々な仕事を請け負い、センターに寄せられた寄付金から賃金を得るというもので、被災者の再就職のための支援も兼ねています。

現在、東北広域震災NGOセンターは70以上の協力企業・団体と情報や物資を共有して活動しており、多くの他団体の支援活動のコーディネート等も行っています。また、石巻市と気仙沼市に事務局を設置しています。

活動概要

IVYは世界中から暖かいメッセージと6,200万円以上のご寄付をいただき、4つの支援活動を行っています。

迅速な初期対応と復興支援

物資支援

地元企業や自治体からの協賛を得て、震災直後から140以上の避難所と病院へ物資支援を続けています。



キャッシュ・フォー・ワーク

4月より、被災地の復興支援と被災者の再就職支援を目的として「キャッシュ・フォー・ワーク」プロジェクトを開始しました。



わたのはプロジェクト

IVYの会員と青年海外協力隊OB・OGが、石巻市渡波小学校にて、炊き出しと子どもを対象としたワークショップを行っています。



他団体のサポート

センターでは、多くの他団体の支援活動のサポートやコーディネートも行っています。



物資支援

今回の震災では、被害地域が東北地方から関東地方まで広範囲に渡り、地震により道路が寸断されたこと、東北で唯一の精油施設(塩釜市)が被災したため、深刻なガソリン灯油不足が起きたこと、また行政の混乱等により、被災地では10日以上にわたって支援物資の配達の遅延が続いたことにより、飢えや寒さという二次的な困難が、被災された人々に追い打ちをかけました。

そこで、IVYは、50名近いボランティアや東北広域震災NGOセンターに加盟してくださった団体・企業の支援の下、今日まで以下のような活動を行い、25000人以上の方々に、食料と生活必需品を皆様のお気持ちと共に届けてきました。



(写真)支援物資をトラックに積み込むスタッフ



IVYの物資配達の特徴

1. 孤立している避難所がないか、自分たちの足で探し出し、訪ねて歩いた
2. 行政や他の支援団体の手が届かないところに届けた
3. 各避難所に合わせた物資を聞き取り、被災者が本当に欲しい物を届けた
4. 聞き取ってから届けるまでの時間をできるだけ短くした
5. 東北内での調達は困難を極めたが、IVYの持っている全国ネットワークを駆使し、遠くは九州の団体からも調達してもらった(乾電池やガスボンベ等)
6. 行政の倉庫に企業から大量に送られてきた物資を眠らせないで速やかに届ける役割を果たした

物資支援



3月15日～31日

エリア: 宮城県南部(名取市、柴田町、岩沼市)
宮城県北部(東松島市、石巻市、南三陸町、女川町)
対象: 26避難所、15000人



4月1日～30日

エリア: 宮城県北部(東松島市、石巻市、南三陸町、女川町、気仙沼市)岩手県(陸前高田市)
対象: 144避難所、25000人

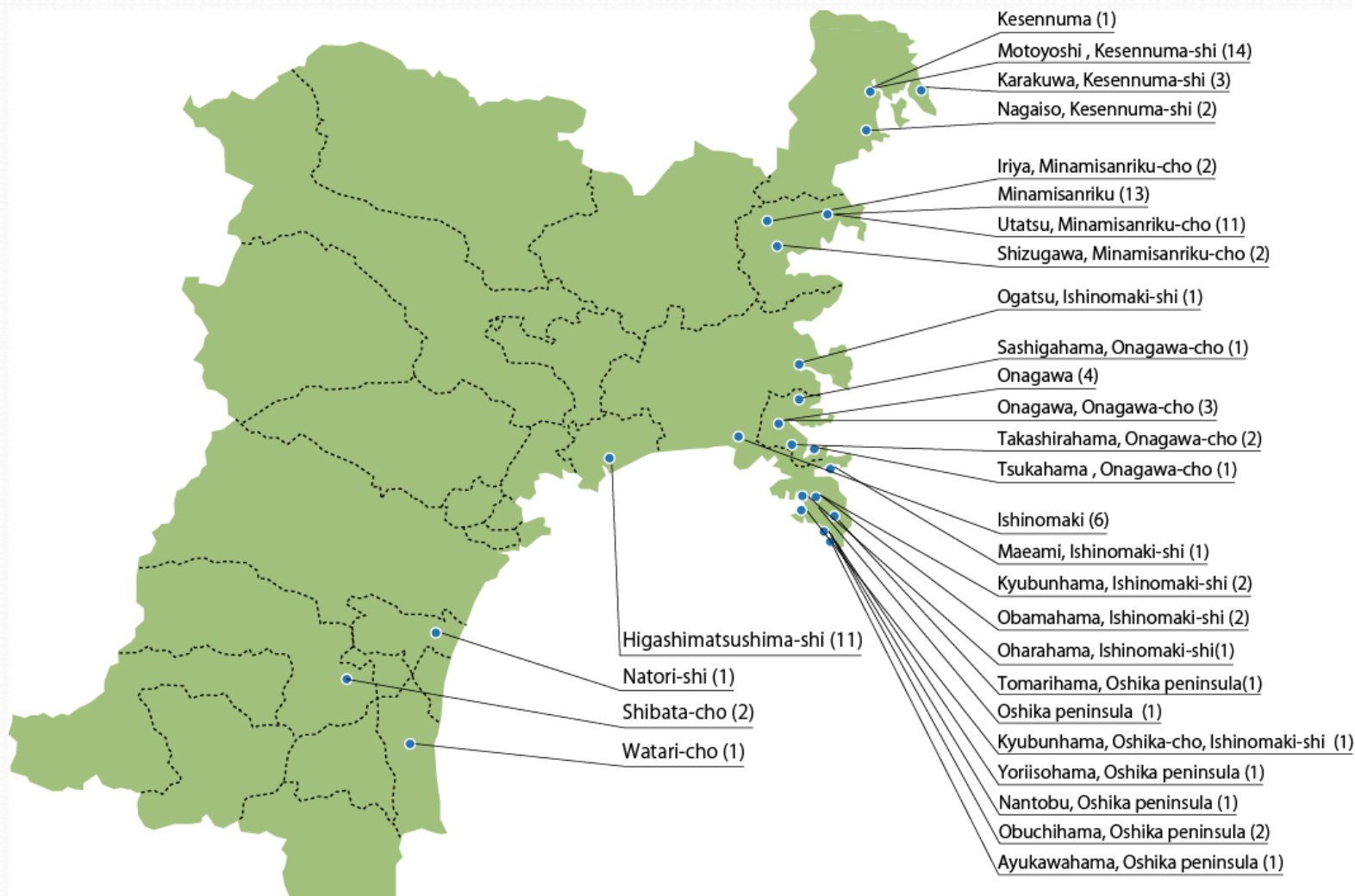


(上)大手衣料メーカーからの支援物資を配達するボランティアスタッフ
(下)物資の仕分け作業では学生ボランティアが活躍

5月1日～現在

エリア: 宮城県北部(女川町北部、南三陸町歌津地区、石巻市雄勝地区)
対象: 10避難所、270人

IVYが食料、生活用品、家電品等をお届けさせていただいた避難所



物資支援

被災地からの声

水浜避難所から

～宮城県石巻市雄勝地区

この度は私ども水浜地区民に力強いご支援をいただき、誠にありがとうございます。

今度の大地震による大津波の威力は、過去に何度も津波の襲来を経験した当地区においても、未曾有としか言いようのない、凄まじいものでした。多数の人々が犠牲になったほか、家屋の8割以上が流出または全壊という甚大な被害を受け、地区民の大半が不自由な避難所生活を余儀なくされました。このようなとき、皆様の温かいお言葉や真心あふれる救援の品々を頂戴し、絶望の淵から這い上がる勇気が湧いてまいりました。私どもは、このことを終生忘れることができないでしょう。

地区民は諸般の事情から各地に離散し、まさに地域崩壊の危機を迎えましたが、辛くも災厄を免れた者や仮設住宅に入居する者で力を会わせ、「水浜の再建」をめざして邁進する所存です。苦難を乗り越え、遠からず元の美しい古里・水浜を御覧に入れることをお約束いたします。今後しばらくは皆様に従前同様のご支援を仰がなければなりません、何とぞよろしく願い申し上げます。追伸：何度もお越しいただき、たくさんの物資をお届けくださり、ありがとうございます。



津波被害を受けた町並み(上・右)
／物資を受け取る被災者(左)

被災地からの声



小野市民センター内に避難されている女性のご姉妹から

～宮城県東松島市浜市地区

私たちは東松島市に住んでいる75歳と72歳の姉妹です。あの日の大震災でお隣の車に拾われて、すぐ高台に避難して、今生きています。帰るべき小さな家は瓦礫と泥にまみれ途方に暮れておりましたが、IVYのみなさんに4月8日、9日と二日がかりで私たちの手に負えない物を取り除いていただきました。

(わたしたちの住んでいた)浜市地区はまだ電気もなく水道も再び止まりましたので生活できる状態ではありませんが、心を元気にしてくださった皆様のお力に灯をみつけ、しっかり生きていきたいと思っています。



震災直後の東松島市内(上段2枚)
物資配達の様子(下段2枚)

物資支援

被災地からの声

旭が丘地区センターから

～宮城県牡鹿郡女川町旭が丘

この度は遠路わざわざ多大な支援物資を賜りまして大変ありがとうございます。何度も勝手なお願いばかりをしてしまい恐縮しています。その都度運んでいただくなど大変感謝しております。

今思えば、震災から時間がたつにつれ、停電、断水、電話の不通、食料・灯油・ガソリン不足、支援物資の遅延、寒さと疲労の蓄積等、先の見えない日々には絶望的な気持ちになった時期もありました。

このような状況の中、皆様からの支援物資は涙が出るほどとてもうれしく、大変励まされ、落ちかけていた気力を取り戻すことができました。

瓦礫が片付かないままの女川町内(上)
新聞や灯油を受け取る家族(下・左)
津波で流されたコンテナが屋根にささった家(下・右)



キャッシュ・フォー・ワーク

緊急支援から復興支援へ

4月12日から石巻市で、気仙沼市では22日から「キャッシュ・フォー・ワーク」プロジェクトが立ち上がりました。支援は緊急援助の段階から復興支援へ、NGOや外部者から徐々に地元(被災地)の方々へと活動の主体をシフトチェンジする段階へと移りました。

プロジェクトの概要

キャッシュ・フォー・ワーク(cash for work)は、災害地等において被災者を復興事業に雇用して、賃金を支払うことで、被災地の円滑な経済復興と、被災者の自立支援につなげる、国際協力の手法です。2004年のインドネシアでのスマトラ島沖地震津波等でも実施され、大災害における被災者支援と経済復興手法として多くの実績を上げたと言われています。

今回の大震災では、津波により特に漁業・水産関係者をはじめ多くの方々が職場そのものを失っておられ、働きたくても職場がない、将来の見通しが全く立たないという深刻な悩みを抱えておられます。一方で、避難所には、津波被害による床下のヘドロ撤去を自力で行うことができず、自宅に帰りたくても帰れない高齢者の方も多くおられます。

東北広域震災NGOセンターでは、外部のボランティアに頼るのではなく、地域の中で「人とお金が地域で回る」ことが、



(上)床板をはがす
(右)庭の砂利の洗浄

地域経済にとっても個々の自立にとっても最重要と考えました。

このプロジェクトでは、皆様から寄せられた基金(ファンド)を元手として、被災者から働き手を募り、避難所におられる被災者の方々が一日も早くご自宅に帰れるよう、床下クリーニング等を行い、働き手には作業時間に応じてこのファンドから賃金を払っています。



(上)女性も活躍／(下)被災した工場から汚れた机を運び出す

プロジェクト期間

- 第1フェーズ 4月12日～5月31日(終了)
- 第2フェーズ 6月1日～8月31日(実施中)
- 第3フェーズ 9月1日～12月31日(実施決定)
- 第4フェーズ 1月1日～3月31日(調整中)

第一フェーズの評価

- ・4月12日開始から5月31日までの50日間、今回の震災で失業された56人(石巻市25名、気仙沼市31名)を雇用することができました。年代は3月に高校を卒業した若者から50代後半まで幅がありましたが、20代～40代前半の特に働き盛り層が大半を占め、特にこの年代に適したプロジェクトだということがわかりました。一方、男女比は11対3となっており、今後女性の雇用創出の必要性も感じています。
- ・支払った賃金は石巻で一日3000円～4000円、気仙沼で6000円。源泉徴収すると手取りは2700円～5400円で、それほど多い金額ではありません。当初4時間労働だった石巻では、手取り額が2700円と少額だったため、「もう少し収入がほしい」という声が聞かれ、時給を800円、1日の労働時間を5時間に延長する措置が4月29日から取られました。
- ・「日払い」は大変好評で、これは6月も継続されています。

6月末までの作業完了件数

石巻55件、気仙沼27件 計82件

・働いている人達の声

「避難所でぼんやりしているよりは身体を動かしていた方が気晴らしになる」

「わずかでもつなぎの生活資金に役立ってうれしい」、

「町の復興に少しでも役立ってうれしい」、

「家主さんにありがとうと言われて、やりがいを感じている」、

「何もかも失ったけれど、この仕事を始めることで区切りをつけられ、次のステップに進もうという前向きな気持ちになれた」、「仲間ができてうれしい」

上記からも彼ら自身がこのプロジェクトを肯定的に捉え、収入面以外にもやりがいを感じている状況がうかがえます。

・作業の質の向上

当初は未経験者ばかりでしたが、50日以上となった人もいて、技術力もプロに近いレベルになっています。スタート時に両チームとも建設会社や工務店のプロの指導を得られたことが大きいようです。

内容的にも、床板はがし、ヘドロのかき出し、洗浄、消毒など、チームで一環して作業が行われおり、丁寧な仕上がりに家主さんからも好評を得ています。

・家主さんの声

「手伝ってくれる家族が地元に住んでいないので途方に暮れていました。地元の若い方々に手伝っていただけて本当に感謝しています」



(上)側溝を掃除する雇用者
(右)気仙沼事務所のコーディネーター



以上のような結果から、

このプロジェクトは、被災地において失業者にとっても自宅を被災した高齢者にとっても意義のある事業だとの結論に至りました。

また 皆様からの支援金により3か月分の資金が確保できたことから8月末までの継続が決定しました。

震災からの日々 1

気仙沼市 M・Tさん(男性、34歳)



□ 震災当日

私は、水産加工会社で魚を詰める際のスチロール、段ボール等を納品する仕事をしておりました。3月11日は天気も良く、忙しく働いていましたが、2時45分頃、急にガタガタ揺れ始め、揺れが強くなったので、外に出たところ、トラックが倒れそうなくらい揺れて、側溝からは水が噴水のように吹き出していました。会社は港から百メートルもないところだったので、二人で高台まで車で避難することにしました。

車を走らせてすぐに路上は渋滞、信号機はついておらず、携帯電話もつながらない、まさにパニック状態でした。唯一の情報が車のラジオで、6メートルの津波が来ると聞いたときはびっくりしました。

高台に逃げて、夕方になり雪がちらついてきて、気温も下がっていく中、東の空がオレンジ色になっていて、下の方から「火事だ火事だ」という叫び声がありました。避難してきた人に聞いたら、船が流され、こぼれた重油で火災が広がっているとのことでした。

震災から5日くらい経ち、実家へ足を運んで見ると、どこからきたかわからない瓦礫だらけ、家は跡形もなくなっていました。すべて津波にさらわれてしまったのです。間もなく職場の社長から、工場再建の目途が全く立たないので、一旦解雇させてほしいと告げられました。家もなく、仕事もなくなり、これからどうしたらいいのか不安で、目の前が真っ暗になりました。

□ 就職活動

4月になり、就職活動に精を出しましたが、ハローワークは

人の行列。震災によって休業、廃業となった会社は数多く、仕事は限りなくゼロに近い状態でした。それでも毎週二、三回はハローワークに足を運び、何の成果もないまま過ごしていた矢先、友人からの電話で「高齢者のお宅の瓦礫の片付けの仕事をしてみないか？」と言われ、経験したことのないことばかりで不安でしたが、新しい始まりだと思い、チャレンジすることを決意しました。

□ 「キャッシュ・フォー・ワーク」での毎日

6月1日、初めて会った人達、半壊した建物、その周りにある沢山の瓦礫の山、地面に広がる黒い泥、何をどうしたらいいのかさっぱりわからない中、周りのみんなが色々教えてくれ、少しずつできるようになりました。作業の不安よりも、周りの人達とのコミュニケーションが不安でしたが、みんないい人たちばかりで、日に日に仕事に行くのが楽しみになりました。

みんなはそれぞれ、自分と同じように職場を無くし、集まってきた人たちで、これまでの事を聞いたり、話したりしている中で、今では誰とでも気軽に話せる、震災中の辛かったことを忘れさせるくらい今は楽しく、仕事もやりがいがあって、毎日充実しています。初めて入った現場は足の踏み場のない場所で、そこを一から一本ずつ、ひとつずつみんなで片付け、洗ったり、手直ししたりして、きれいになったときの達成感がたまりませんでした。

震災はさまざまな被害をもたらし、その他いろいろなものを奪っていききましたが、震災がなかったらみんなと出会うことはなかったかもしれない。今は周りの人たちを大事にし、自分の役割を確実にこなせるよう、日々努力しています。

震災からの日々 2

気仙沼市 U・Aさん(女性、18歳)



□ 荒れ果てた気仙沼の姿に泣くことも出来なかった

3月11日、両親と姉は仕事へ出かけ、自分は祖母と自宅にいました。だんだんと揺れが強くなり、祖母と外へ出ました。外に出ると、地鳴りのゴォーという音が聞こえ、大きなサイレンと共に大津波警報の放送が鳴り、川からもゴォーという音が鳴り響いてきました。

両親や姉に連絡をしようと思っても電話は通じず、メールでのやりとりが続く中、姉から父の会社は1階全部と、2階の途中まで水が上がったけれど、みんなは無事だというメールが来ました。

震災の夜、毛布にくるまって寒い思いを我慢しながら一夜明けるのを待っていました。外を見ると一面の火の海。恐怖と寒さでなかなか眠りにつけず、真っ暗な中何も出来ずぼーっとしているうちに、朝になり外を見たら、全く違う荒れ果てた気仙沼の景色が見えました。しかし全く実感が沸かず、泣くことさえも出来ず、思わず笑ってしまいました。

安否が分からなかった友人が家にやって来て、嬉しくて抱きついている所へ、同級生の死亡の連絡が…。中学校の時ほぼ毎週遊んでいた友だちの死。信じられなくて、きっと避難所にいるに違いないと信じていたのですが、新聞の死亡欄に友だちの名前が載っていて、震災は本当にあったんだ、夢じゃなかったんだと思いました。

□ 被災後の生活

そして13日の朝、被災していないスーパーが開いているという情報が入り、父とカバンを背負って往復3時間かけて買い物に行きましたが、1時間並んでも買えるのは5品だけ。この

ように、欲しくても買えない、あるいは品物がなくて買えないという状態が随分続きました。

一週間後に電気が来て、やっとテレビで今の気仙沼の現状を見ることが出来ました。言葉が出ず、自然と涙が出てきました。でも水やガスはまだきていないので、水は自衛隊から貰い、ガスコンロや石油ストーブを使って料理をしていました。

□ わたしたちのような若い世代で気仙沼の復興を！

落ち着いてきた頃、知人と共に、IVY気仙沼の仕事を始めました。最初は被災した家の食器洗い、家具洗いなどでしたが、月日が経つにつれ男の人と同じ作業をするようになりました。最初は出来るかなと不安でしたが、だんだんと力もついてきて、男の人と同じ作業をしたり、狭い所や細かい所の作業などもするようになりました。家主さんから「綺麗になった」とか「ありがとう」などと言ってもらえると、すごく嬉しく、やりがいがあるなど感じながら仕事をしています。

炊き出しを行うこともありますが、「ありがとう、美味しかったよ」「助かった」と言ってもらえると、嬉しい気持ちになると同時に、4ヶ月経っても炊き出しをもらわないとご飯が食べられない、ということが決して珍しくはない現実、早く全地域にライフラインが揃ってほしいと思わずにはいられません。

復興しては来ましたが、海の町気仙沼の、肝心の水産業はほぼ活動していない状況です。漁は復活しつつあるものの、今までのような活気はありません。4ヶ月経った今でもここ気仙沼では手付かずの瓦礫が随所にあります。今まであった美しい港町気仙沼を、一日も早く取り戻すためにも、自分たちのような若い世代の人たちの手で復興を進めていきたいと思います。

わたのはプロジェクト

炊き出し

渡波地区は、石巻市でも海に最も近い地区の一つです。港に近く、多くの魚の加工場が立ち並び、そこで働く人たちの家が立ち並んでいましたが、今回、津波の直撃を受け、ほとんどの家が壊されました。そのため、渡波小学校には家を失った1000人以上の人たちが避難していましたが、収容している人数が多すぎたため、十分なケアを受けられないまま10日が過ぎていました。特に提供される食事はバラエティも少なく、栄養価にも乏しく、冷めた食事だったので、氷点下での避難所暮らしの中、人々は温かい食事を求めています。

この窮状を知ったIVYは、まず学校の元給食室だった部屋を借り、1000人分の炊き出しができる調理設備を整備しました。IVYは名取市の増田中学校ですでに炊き出しで成功を収めていたので、その時と同じやり方で行うことにしました。この1000食分の炊き出しは、3月25日から4月末までの35日間毎日行われました。

わたのはスマイル

今回の震災で子ども達は深い悲しみを経験しました。そこで、IVYは、いくつかの大学のボランティアチームと連携して、



(上)炊き出しの様子／(下)オブジェの材料として集められたガレキ



渡波小学校の教室をお借りし「プレイルーム」という遊び場を作りました。また、グラウンドの一部を整備し、安全に運動ができる場所を作りました。本当に沢山の方からのご協力があり、少しずつ「子ども達の遊び場」は出来上がっていきました。子どもたちはたくましい笑顔で前に前に進んでいます。「プレイルーム」では子ども達とさまざまな遊びをしました。校庭に流れ着いた「町のカケラ達(ガレキ)」を子ども達が、自由にくっつけてオブジェを作りました。

悲しみの固まりが、子ども達の力によって優しいオブジェに生まれ変わりました。

オブジェは渡波小学校内に展示しましたが、訪れた方々の顔には微笑が浮かんでいました。子ども達の作ったオブジェは日本中に、希望と笑顔を与えてくれる事でしょう。

ネットワーク団体の 支援活動



1



4



5



7



8



2

3

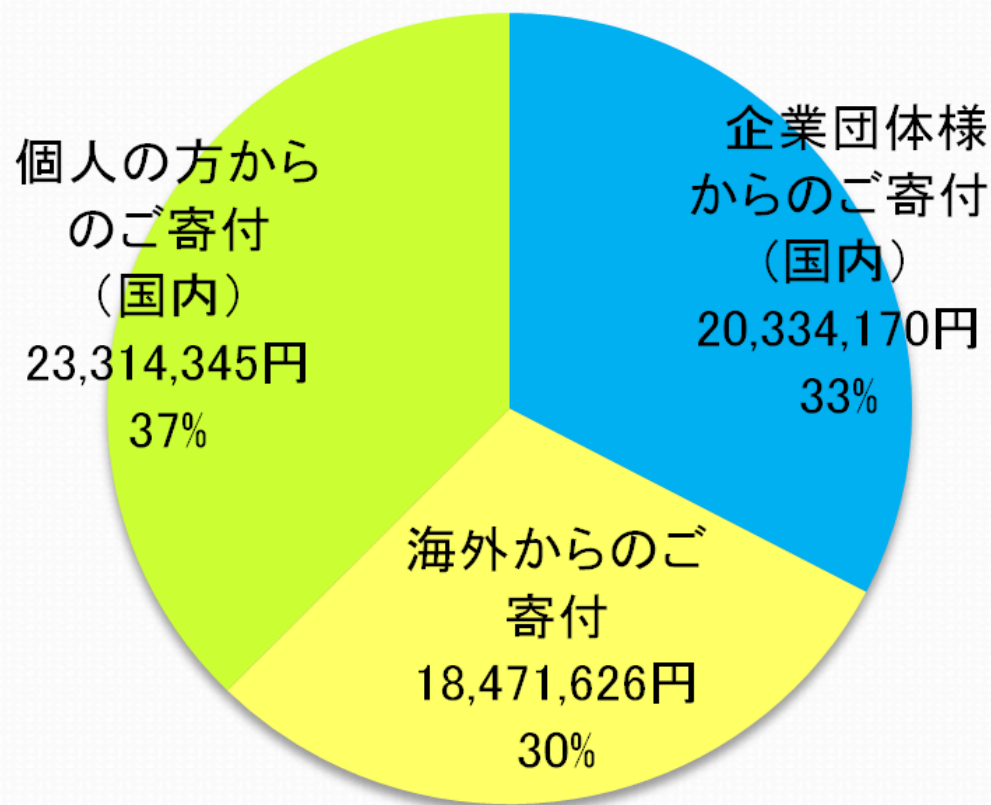


6

1. 仙南中央病院へのボランティア派遣／2、3. 矢本東小学校へ卒業記念品としてお菓子の寄付(協力:佐藤松兵衛商店)／4、5. 連携団体JIM-NETによる共同風呂「希望の湯」／6. 山辺理容組合による青空美容室／7、8. 山形名物「芋煮」と「どんどん焼き」の炊き出し

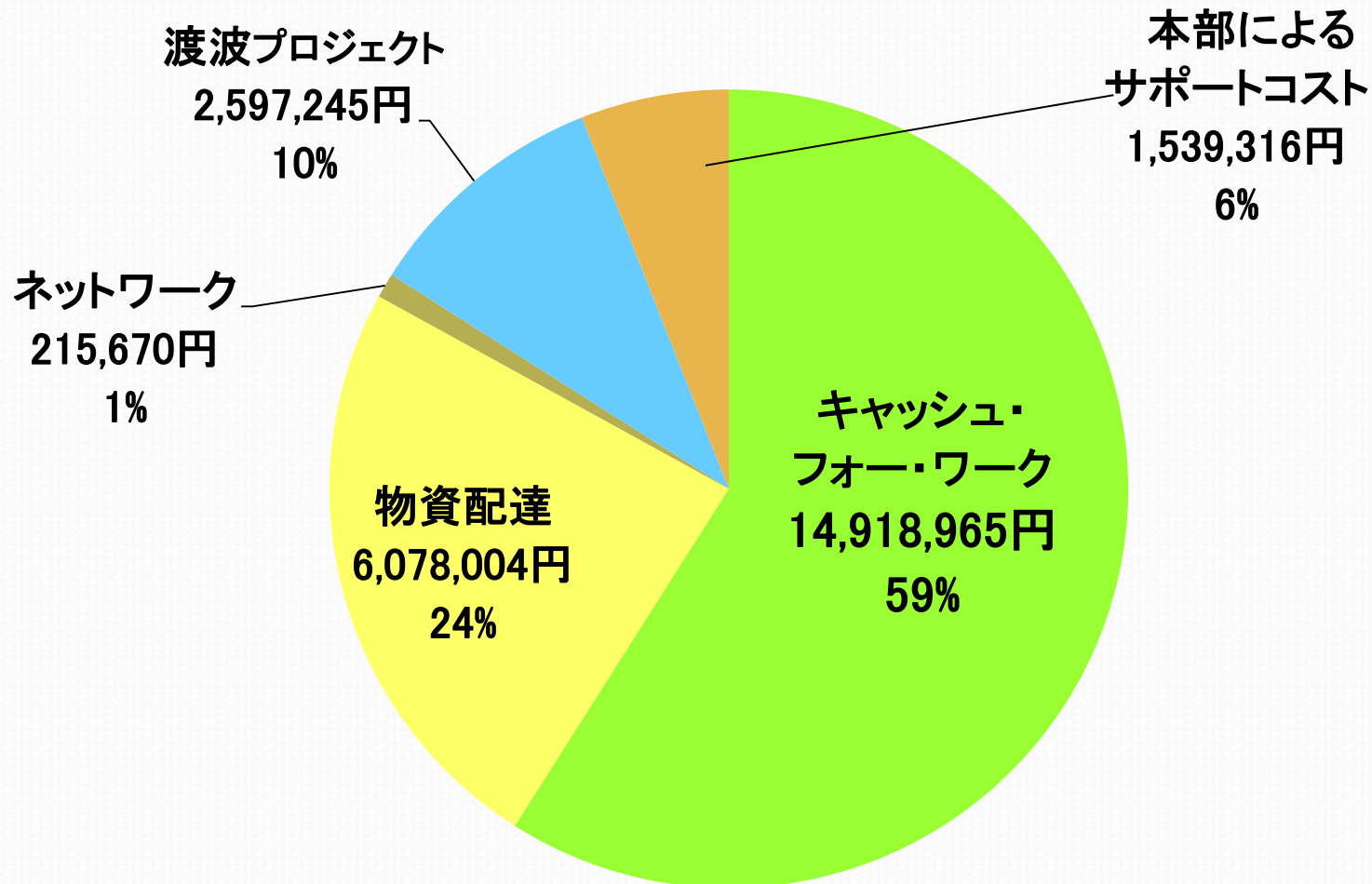
収支報告（3月15日～6月30日）

収入金額 62,120,141円



収支報告（3月15日～6月30日）

支出金額 25,349,200円



協力企業・団体 一覧

- ・(特活)アーユス
- ・アイスクリームデザイン
- ・(株)アイリスオーヤマ&ダイシン本部
- ・International Medical Coop (IMC/アメリカ)
- ・International Orthodox Christian Charities (IOCC/アメリカ)
- ・(特活)WE21ジャパン
- ・(株)NTTPCコミュニケーションズ
- ・(特活)えひめグローバルネットワーク
- ・小国ガスエネルギー株式会社
- ・小国フォルケフォイスコーレ
- ・海應院(長野県小諸市)
- ・(株)カタログハウス
- ・(有)ガレッジプラスワン
- ・(特活)開発教育協会
- ・元気市場タカハン
- ・(特活)国際協力NGOセンター
- ・コペルニク
- ・コモンセンス、ペニーハーベスト(アメリカ)
- ・(株)佐藤松兵衛商店(乃し梅本舗 佐藤屋)
- ・財務省東北財務局
- ・(株)蔵王ミート
- ・蔵王温泉観光協会青年部
- ・(特活)シェア=国際保健協力市民の会
- ・しらたか ノラの会
- ・JICA二本松
- ・(株)ジョイン
- ・庄内シルク焼きそば研究会
- ・シンク ジ アース
- ・公益社団法人セカンドハンド
- ・青年海外協力隊OBOG有志
- ・仙台市
- ・仙南中央病院(医療法人本多友愛会)
- ・(株)ソフトバンク
- ・株式会社社中青果
- ・(特活)地球市民の会
- ・(特活)地球の木
- ・TIC ネットワーク(東北国際協力ネットワーク)
- ・テラ サカモト ファンデーション(アメリカ)
- ・天童西ロータリークラブ
- ・東日運送株式会社
- ・東部開発有限会社(小国町)
- ・(財)とよなか国際交流協会
- ・名取市
- ・(特活) 日本国際ボランティアセンター
- ・日本イラク医療支援ネットワーク[JIM-NET]
- ・ネットワーク『地球村』
- ・(特活)パルシック
- ・(株)パレス平安
- ・VAC Co.LTD(ベトナム)
- ・Be UP ビアップ
- ・東日本大震災市民支援ネットワーク・札幌「むすびば」
- ・日比谷花壇株式会社
- ・地域・国際貢献サークル「フォーラ夢」
- ・(株)平安典礼
- ・(特活) ホープ・インターナショナル開発機構
- ・(株)ボブ アカオニデザイン
- ・松田建設株式会社
- ・マツダレンタカー山形店
- ・一般財団法人 民際センター
- ・向井建設株式会社東北支店
- ・(株)ムサン
- ・モンテディオ山形サポーター有志
- ・(株)モンベル(アウトドア義援隊)
- ・山形県小国町グループ
- ・山形県上山市役所
- ・山形県山辺町グループ
- ・山形理容組合東村山地区青年部
- ・山寺奥之院、金乗院
- ・矢本東小学校
- ・(株)ユニクロ
- ・LOVE FOR NIPPON
- ・(株)ラッシュ ジャパン
- ・ルーテル教会救援

